

「持続可能な多自然地域づくり」トークセッション ～Z世代や企業の力を活かした多自然地域づくり～

参考資料

- 1 日時 11月11日（土）
- 2 場所 園田学園女子大学 尼崎市南塚口町7丁目29-1
- 3 スケジュール

受付 13:30～14:00

第1部 14:00～15:30 トークセッション

第2部 15:45～17:00 事例発表・交流会
(グループトークセッション)

第3部 17:30～19:30 懇親会

会場までのアクセス

阪急電車の場合・・・阪急塚口駅から徒歩10分
 JRの場合・・・JR塚口駅から徒歩20分



- 阪急塚口駅より 徒歩約10分、
バス4分「園田学園女子大学」下車
(阪神バス阪神出屋敷行14番系統)
- JR立花駅より バス7分「園田学園女子大学」下車
(阪神バス阪急塚口行14番系統)
- 阪神尼崎より バス11分「南塚口町1丁目」下車
(阪神バス阪急塚口行13番系統)

大学の駐車場は利用不可のため公共交通機関でのご参加をお願いします

1 日時 11月11日(土) 【第1・2部】14時～17時
2 場所 園田学園女子大学
 4号館(樟和館)1階クリエイティブcommons

3 趣旨

- これまで県主導で実施してきた「地域再生大作戦」の成果と課題を踏まえ、今年度から「持続可能な多自然地域づくりプロジェクト」として新たな取組を開始
- その特徴的な取組の一つとして、Z世代の感性や能力、企業のノウハウ/スキルを活用し、人口減少等の地域課題を解決する「ひょうご絆プロジェクト(補助事業)」を開始
- 本トークセッションでは、持続可能な多自然地域づくりに向け、**公民連携の手法などの取組を発信し、さらなる大学や企業の参画を促進**

【参考:見直しのポイント】

項目	(旧) H20～R4 地域再生大作戦	(新) R5～ 持続可能な多自然地域づくり プロジェクト
①体制・取組	小規模集落の維持・活性化の単発モデルづくり	地域運営組織の創出に向けた広域的な地域づくり(小学校区単位等)
②支援体制	県主導による支援	県と市町の連携による重層支援体制
③関係人口拡大	個人ボランティアとの連携 関係人口案内所 運営:キタイ設計(株)	個人ボランティア× 大学×企業との連携

4 対象

- 地域課題解決に関心のある**大学**、ひょうごSDGs Hub会員**企業**など
- 地域づくり主体**(市町、地域団体、地域づくり支援団体等)

5【第1部】トークセッション 14:00～
 テーマ: **Z世代や企業の力を活かした多自然地域づくり**

- (1) 挨拶
 (2) プレゼンテーション
- ① **新プロジェクト紹介と企画説明**
 ・地域再生アドバイザー 平櫛 武
- ② **取組事例のプレゼンテーション**



以下、3つの大学から取組事例を発表

地域(市町)	大学	企業・団体等	連携テーマ・目的
「日本で最も美しい村」香美町小代協議会(香美町)	園田学園女子大学 経営学部	Trees (動画・映像制作会社)	地域の暮らし・文化の記録映像の作成→地域資源の発掘、観光コンテンツ開発による地域活性化
天船むらづくり委員会(多可町)	甲南女子大学 国際学部	多可町日本語教室	外国人の移住・定住促進イベント等→多文化共生社会の創造、地域活性化
佐用地域づくり協議会・江川地域づくり協議会(佐用町)	兵庫県立大学 環境人間学部	ドローン減災士協会、佐用高校	地元高校生×ドローンを活用した防災訓練、人材育成→地域防災力の向上

- ③ **トークセッション(発表者3名×起業家)**
 【コーディネーター】地域再生アドバイザー 平櫛 武
 【パネラー】・(株)Local PR Plan
 代表取締役 安達 鷹矢(元 丹波篠山市福住地区移住コーディネーター 元 楽天グループ勤務)
 ・取組事例 発表者 大学生3名
- ④ **記念撮影**

第1部 15:30終了

6【第2部】事例発表・交流会 15:45～17:00

取組の事例発表をもとに、Z世代や企業の力を活かした多自然地域づくりについて、テーブル毎に専門家や企業等からの参加者を交え意見交換・交流を図りながら計画のブラッシュアップを行う

- ① **企画説明** (座長:兵庫県立大学 准教授 杉山 武志)
 ② **取組事例のプレゼンテーション**

以下、4つの大学等から取組事例を発表

地域(市町)	大学	企業・団体等	連携テーマ・目的
志方西地区町内会連合会(加古川市)	兵庫県立大学 環境人間学部エコ・ヒューマン地域連携センター	(一社)ため池みらい研究所	地域内外の若者等を対象としたウォーキングイベントの定期開催→関係人口の創出
柏原自治協議会(丹波市)	関西学院大学 建築学部	(株)まちづくり柏原	地域資源の課題の発掘をもとに都市空間を調査・提案→まちづくりとしての新たな機能や仕掛けを提案
城下町洲本再生委員会レトロこみち協同組合/洲本市外町愛育協会(洲本市)	京都大学 エスノ3ジョウ	(株)BoCS	城下町の歴史・食文化の魅力発信・料理教室の開催→交流促進・地域活性化
(一社)淡路観光協会南あわじ地区会(南あわじ市)	関西国際大学 起業研究会Being	神姫バス(株) うずのくに南あわじ	観光課題を分析、地域資源活用の可能性の検討→持続可能な観光地域づくりにつながる解決案の提案・実践



- ③ **グループトークセッション**
 専門家、企業、行政等の参加者を交えテーブル毎に意見交換を行いながら、今後の取組へのアイデア出しや交流を深める

【コーディネーター】

- 杉山 武志 (兵庫県立大学 環境人間学部 准教授)
- 平櫛 武 (地域再生アドバイザー/キタイ設計(株)事業開発本部 部長)
- 野田 満 (地域再生アドバイザー/さんぞデザイン共同代表/近畿大学総合社会学部 講師)
- 青柳 順子 (地域再生アドバイザー/一般社団法人「ちいきのて」理事長)

- ④ **発表・まとめ** (座長:兵庫県立大学 准教授 杉山武志)
 ・各テーブルからまとめをコーディネーターが発表
 ・座長クロージング

【第2部】17:00終了

7【第3部】懇親会

食事を楽しみながら懇談・交流を図る

日時 11月11日(土) 17時30分～19時30分

場所 園田学園女子大学
 5号館1F食堂開花亭

参加費 3,000円(税込み)
 ※当日、現金支払い願います

内容 軽食&ドリンク(ジュース・ビール等)
 サンドイッチ、スモークサーモン、サラダ、エビフライ、ヤンニョムチキン、シュースtring、カレー、ピザ、スパゲティ、焼きそば、たこ焼き、ロールケーキなど

その他 園田女子大によるキッチンカーでクレープ、ジェラートの販売あり



■ 平橋 武 (ひらくし たけし) **キタイ設計株式会社 事業開発本部 部長**

- ・兵庫県の地域再生アドバイザー、県全体の地域づくりとして800以上のワークショップ等の運営
- ・自らも兵庫県の里山地域に対して貢献できるような地域づくりを実践
- ・ひょうご関係人口案内所 (さとまちガイドラボ) 立ち上げ・運営に携わる
- ・播磨地域のみどりに関わる活動「はりまグリーンラボ」、自然体験を通じて感性を養うことを目的に活動している「里山サバイバルクラブ」の事務局運営をキタイ設計(株)が社会貢献として実施
- ・「大阪・関西万博」ひょうご活性化推進協議会企画委員会委員



■ 安達 鷹矢 (あだち たかや) **株式会社 Local PR Plan 代表取締役**

- ・株式会社NOTE 福住・後川エリアマネージャー、コロナ禍前はベトナムと丹波篠山の2拠点居住
- ・2011 楽天グループ(株)勤務を経て、丹波篠山市へ移住し、一般社団法人ノオトに入社
- ・2012~ 兵庫県・京都府広域連携プロジェクト外のPR推進業務、有馬温泉で宿泊施設と地域づくりを学ぶ
- ・2014~ フリーランスとして丹波市の移住定住促進事業や地元企業のPRコンサルティング等に從事しながら、ボランティアで福住の移住促進活動を開始。価値を生み出す「職人」を呼び込むまちづくりを展開し、約10年で移住開業40軒、100名以上の移住者を呼び込む
- ・2017~ 株式会社Local PR Planを設立、「NIPPONIA 福住 宿場町」「NIPPONIA 後川 天空農園」を運営する他、福住地区でセレクトショップ、シェアオフィス、古民家レジデンス、ワーケーションビレッジ等の事業を展開



トークセッション会場

1 地域再生大作戦(H20~R4)の成果と課題

- 成果
 - ・小規模集落における住民意識の高揚、賑わいづくりなど単発・部分的モデルの創出
 - ・モデル例として特産品開発、交流イベントなどを約350集落(44%)で実施
 - ・地域運営を支えるキーマン輩出 (地域おこし協力隊・OB約250人、地域再生アドバイザー約60人、関係人口約600人)
- 課題
 - ・集落元気度調査結果R3末 → 人口減少の更なる進展で小規模集落を対象とした地域づくりが限界
 - ・小規模集落が10年余りで3倍増急増(多自然地域の1/3に拡大、都市部にも滲み出し)
 - ・個々の集落で地域運営の担い手が枯渇(この6年で大作戦実施集落が1/4に急減)

2 見直しの基本的な考え方

- ① 体制・取組を「点」→「面」へ新ステージへ
「単発・部分モデル」から地域運営単位の広域化など「持続可能な生活圏形成型」支援にシフト
- ② 支援エリアの拡大(一部都市部を含む)
- ③ 県・市町の重層支援体制の整備

3 取組の方向性

- ア 支援対象を多自然地域の全集落に拡大 (都市部の神戸、阪神南、東播磨を含む)
- イ 地域運営体制を集落単位 (点) ⇒ 旧小学校区等单位 (面) にリサイズ
- ウ 県・市町の重層支援体制の整備 (地域への直接支援は市町、県は後方支援)
- エ 持続可能な生活圏形成に向けた新たな支援 (単発的な「点」から生活全般の「面」の支援)
- オ 公民連携による「関係人口」創出プロジェクト (都市住民、企業、大学等)

SDGsの推進

